

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十五年二月十三日

樞密院書記官長

樞密院議長宛

昭和十五年二月 日立案

書記官長 

主筆 書記官

書記官 

臺灣總督府官制中改正ノ件
審査報告

(別紙ノ通り)

抄
卷
四

臺灣總督府官制中改正ノ件審査報告

謹デ今回御諮詢ノ臺灣總督府官制中改正ノ件ヲ審査スルニ

臺灣總督府ニ於テハ從前^來同府官房並各局事務分掌規程ヲ

以テ總督官房ニ法務課ヲ置キ民事刑事其他司法行政ニ關ス

ル事項行刑ニ關スル事項及司法保護ニ關スル事項等ヲ掌ラシ

又昭和十三年以來^ル規程ヲ以テ南^洋官房ニ外務部ヲ置キ南

又同府ニ於テ

前記

總督

支南洋其ノ他海外ニ關スル事項外國人ニ關スル事項及其他ノ涉

外事項ヲ掌ラシムルコトトシ其ノ部長ハ勅任ノ事務官ヲ以テ之ニ

充ツルヲ例トセシ然ルニ現在同府ニ屬スル法院茲ニ檢察局ニ於テハ

高等法院長同檢察官長以下八名ノ勅任官ヲ配置セラルルニ對シ

總督ノ補助機關トシテ之ガ監督事務ヲ掌理スル前記法務

課ニ於テハ僅ニ課長ニ奏任事務官一名ヲ配置セラルルニ過ギズ

從テ斯ル機構ヲ以テシテハ到底司法人事ノ處理司法官ノ指導

訓練檢察事務ノ指揮行刑事務ノ指導等司法行政事務ノ

遂行ニ當リ之ガ萬全ヲ期シ得ザルノ嫌アリ加フルニ近時司法關係

ノ重要法典中改廢制定ヲ必要トスルモノ尠カラサルモノアルニ至リ

之ガ處理ニ付テモ亦缺クルノ憾ナシトセズ由テ此ノ際其ノ機構ヲ

擴大強化シ以テ時要ニ應センガ爲メ從前ノ法務課ニ代ヘテ同府

内ニ局ヲ新設セントス^①又今次事變ノ進展ニ伴ヒ南支南洋ニ
對スル帝國ノ施策如何ハ事變ノ目的達成ニ至大ナル關聯ヲ有
スルニ及ビ帝國南方ノ據點タル臺灣ノ地位一段ト其ノ重ナ
カ^カ為スニ至レリ從テ從前同府ニ於テ掌理シ來レル南支南洋關
係ノ諸施設ハ此ノ際愈々之ガ擴充ヲ圖ルノ要緊切ナルモノアリ
更ニ事端ハ南支ノ地域ニ波及シ爲メニ此ノ方面ニ對スル各般ノ

應急措置及以復興施設ニ付テモ亦其ノ協力ヲ要スルモノアルニ
至レルヲ以テ之ガ掌理ニ當ル從前ノ外務部ノ機構ヲ以テシテハ
到底現下ノ急需ニ應ジ圓滑ナル遂行ヲ期スルコト能ハザルニ
由リ其ノ地位ヲ昂上シ處務ニ便ナラシムル爲メ現在ノ事務分掌
規程ニ基ク部ヲ廢シテ官制上ノ部ト爲サントス^②申^申茲ニ本
件ヲ以テ現行臺灣總督府官制中ニ改正ヲ加ハントスルモノニシテ
^{以上兩部ヲ設置ノ旨トシ}

本案改正ノ要旨ハ同府 部兩ニ於テ在來ノ總督官房及六
 局ノ外ニ新ニ法務局及外事部ナル一局一部ヲ設ケ(第十條)其ノ事
 務ノ分掌ハ總督ヲシテ之ヲ定メシムルコトトシ(第十條)該部局ノ設
 置ニ因リ勅任ノ局長部長各一人事務官二人屬五人ヲ増員ス
 ルコトトシ又從前ノ勅任事務官一人ハ之ヲ外事部長ニ振替フル
 趣旨ヲ以テ事務官中勅任ト爲シ得ルモノノ定數一人ヲ減ジ(第十條)

局長及外事部長ハ總督及總務長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ
 掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督スルモノトシ(第二十條)從前ノ分課
 ニ關スル規定ハ實情ニ適應セザルモノアルニ由リ之ヲ削除スル
 コトトシ(第十八條及第十九條)其ノ他必要ナル字句ノ整理ヲ爲サントスル
(第二十條及第二十五條)ニ在リ而シテ此ノ増員ニ要スル經費ハ總テ本年度
 豫算ニ計上セラレタリ

按ズルニ本件ハ臺灣總督府ニ於テ司法行政ニ關スル監督機能
ヲ強化擴充センガ爲メ及
渉外事務ノ増進ニ應ジ機構ヲ整ヘテ
之ガ處理ニ遺憾ナカラシメンガ爲メ新ニ一局一部ヲ設ケ以テ従前ノ
課又ハ内部規程ニ基ク部ニ代ラシメ及
之ニ伴ヒ若干ノ職員ヲ増
置セントスルモノニシテ已ムヲ得ザルモノト認メラルルニ由リ此
ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベシト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十五年二月二十三日

書記官長

議長宛

刑
部
院

臺灣總督府官制中改正ノ件審査報告

考一



謹デ今回御諮詢ノ臺灣總督府官制中改正ノ件
ヲ審査スルニ臺灣總督府ニ於テハ從來同府官
房竝各局事務分掌規程ヲ以テ總督官房ニ法務
課ヲ置キ民事刑事其ノ他司法行政ニ關スル事
項、行刑ニ關スル事項、司法保護ニ關スル事項等
ヲ掌ラシム然ルニ現在同府ニ屬スル法院竝ニ
檢察局ニ於テハ高等法院長同檢察官長以下ハ
名ノ勅任官ヲ配置セラルルニ對シ總督ノ補助
機關トシテ之ガ監督事務ヲ掌理スル前記法務

課ニ於テハ僅ニ課長ニ奏任事務官一名ヲ配置セラルルニ過ギズ從テ斯ル機構ヲ以テシテハ到底司法人事ノ處理、司法官ノ指導訓練、檢察事務ノ指揮、行刑事務ノ指導等司法行政事務ノ遂行ニ當リ之ガ萬全ヲ期シ得ザルノ嫌アリ加フルニ近時司法關係ノ重要法典中改廢制定ヲ必要トスルモノ尠カラザルモノアルニ至リ之ガ處理ニ付テモ亦缺クル所アルノ憾ナシトセズ由テ此ノ際其ノ機構ヲ擴大強化シ以テ時要ニ應ゼンガ爲メ從前ノ法務課ニ代ヘテ同府内ニ

一局ヲ新設セントス又同府ニ於テハ昭和十三年以來前記規程ヲ以テ總督官房ニ外務部ヲ置キ南支南洋其ノ他海外ニ關スル事項外國人ニ關スル事項及其ノ他ノ涉外事項ヲ掌ラシムルコトトシ其ノ部長ハ勅任ノ事務官ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トセリ然ルニ今次事變ノ進展ニ伴ヒ南支南洋ニ對スル帝國ノ施策如何ハ事變ノ目的達成ニ至大ナル關聯ヲ有スルニ及ビ帝國南方ノ據點タル臺灣ノ地位一層ノ重キヲ加フルニ至レリ從テ從前同府ニ於テ掌理シ來レル南支

南洋關係ノ諸施設ハ此ノ際愈々之ガ擴充ヲ圖ルノ要緊切ナルモノアリ更ニ事變ハ南支ノ地域ニ波及シ爲メニ此ノ方面ニ對スル各般ノ應急措置及復興施設ニ付テモ亦其ノ協力ヲ要スルモノアルニ至レルヲ以テ之ガ掌理ニ當ル從前ノ外務部ノ機構ヲ以テシテハ到底現下ノ急需ニ應ジ圓滑ナル遂行ヲ期スルコト能ハザルニ由リ其ノ地位ヲ昂上シ處務ニ便ナラシムル爲メ現在ノ事務分掌規程ニ基ク部ヲ廢シテ官制上ノ部ト爲サントス以上兩部局ノ設置ヲ

目途トシ茲ニ本件ヲ以テ現行臺灣總督府官制中ニ改正ヲ加ヘントスルモノニシテ本案改正ノ要旨ハ同府ニ在來ノ總督官房及六局ノ外ニ新ニ法務局及外事部ナル一局一部ヲ設ケ(七條)其ノ事務ノ分掌ハ總督ヲシテ之ヲ定メシムルコトトシ(八條)該部局ノ設置ニ因リ勅任ノ局長部長各一人奏任ノ事務官二人及屬五人ヲ増員スルコトトシ又從前ノ勅任事務官一人ハ之ヲ外事部長ニ振替フル趣旨ヲ以テ事務官中勅任ト爲シ得ルモノノ定數一人ヲ減ジ(九條)局長及外

事部長ハ總督及總務長官ノ命ヲ承ケ其ノ主務
ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督スルモノトシ
(第二十條)從前ノ分課ニ關スル規定ハ實情ニ適應
セザルモノアルニ由リ之ヲ削除スルコトトシ
(第二十八條及)其ノ他必要ナル字句ノ整理ヲ爲サ
ントスル(第二十五條及)ニ在リ而シテ此ノ増員ニ
要スル經費ハ總テ本年度豫算ニ計上セラレタ
リ

按ズルニ本件ハ臺灣總督府ニ於テ司法行政ニ
關スル監督機能ヲ強化擴充センガ爲メ及涉外

事務ノ増進ニ應ジ機構ヲ整ヘテ之ガ處理ニ遺
憾ナカラシメンガ爲メ新ニ部局ヲ設ケ以テ從
前ノ課又ハ内部規程ニ基ク部ニ代ラシメ茲ニ
之ニ伴ヒ必要ナル職員ノ増置ヲ爲サントスル
モノニシテ已ムヲ得ザルモノト認メラルルニ
由リ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベシト思料ス
右謹デ審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十五年二月二十三日

樞密院書記官長堀江季雄

樞密院議長公爵近衛文麿殿

昭和十五年三月 日立寮

書記官長 

主筆

書記官

書記官



奏任文官特別任用令中改正ノ件

審査報告

(別紙ノ通)